

一株 20kg 超をねらう夏秋ナスづくり

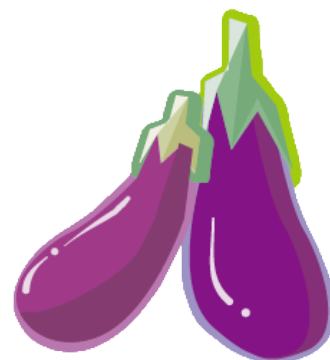
栽培のポイント

●初期は、根づくり・株づくり！

根量不足は盛夏期以降のなり疲れ症状の原因となります。初期からのなり込みは根張りを邪魔します。MリンPKを元肥に利用し、根量増大と徒長抑制を優先して管理しましょう。初期の花は摘み、着果を遅らせましょう。

●すべての葉に光と風が当たるように整理！

養分吸収力の強いナスは、側枝の発生も旺盛です。初期のうちに樹を暴れさせると株全体の受光体勢が悪くなるので、摘心・整枝は、側芽が小さいうちに除去するのがコツです。MリンPKは、着花力を助けるので、良い花（メシベが長い）を残すことが上手なやり方です。



●最盛期以降は、水分も養分も切らさない！

「長花柱花」と言われるように、紫色の濃い大きな花を着けさせることが、実の太りをスムーズにさせる。梅雨明け後は、水分もチッ素分も切らさないようにしましょう。MリンPKは、花質の低下を防いでくれます。

春夏ナスの施肥提案（1a＝30坪）

資材名	元肥	追肥① (生育初期の追肥)	追肥② (最盛期以降の追肥)
苦土入りMリンPK	5kg	2～3kg	2～3kg
バクヤーゼK	90kg	—	15kg
NK化成	2～3kg	2～3kg	3～5kg

着果させてから追肥をスタート。20日おき。

梅雨明け後から積極的な追肥を！
10～15日おきに行う。

石ナスの発生

生育初期に多く、栄養バランスの崩れ（チッ素過剰）で発生しやすい。

尻太り果の発生

花質の低下で受粉不良となり、スムーズな縦伸びを邪魔されると発生する。

